

日本の民間宗教

豊川閣妙巖寺（豊川稲荷）を訪れて

TTS 専門科2年 野町 真理

1、妙巖寺と豊川稲荷

「豊川稲荷」の名で知られ、日本三大稲荷の一つに数えられている豊川閣妙巖寺は、今からおよそ550余年前、1441年参州豊川円福の地に創建された曹洞宗の寺である。法堂（本堂）にはこの寺の本尊千手観世音菩薩をまつり、本殿には山門の鎮主・護法の善神と考えられている豊川ダキニ眞天（ダキニシンテン）をまつっている。

曹洞宗の開祖道元禪師のもとで修行した寒巖禪師（1217～1300）は、宋（中国）からの帰途、白狐にまたがって稲穂を荷い、宝珠を捧げて海上に現われたダキニシンテンの姿を見たとのことである。帰朝した禪師は感得した姿を像に刻み、護法の善神としてまつた。

以来、代々にわたり相伝されたが、寒巖禪師から数えて6代目の法孫にあたる東海義易禪師が妙巖寺を開創。伝来の千手観音菩薩を安置し、又境内にこのダキニシンテンを山門の鎮主・護法の善神としてまつり、550余年の歳月を経て今日に至っている。

豊川稲荷という名は通称であり、正式な名称は「豊川ダキニ眞天」である。白狐は豊川ダキニ眞天の眷属（従者の意）である。稲荷信仰はもともと稲作に対する庶民の畏敬と崇拝の念、祈りの心が仏教思想と神道とに結びついたものであり、豊川ダキニ眞天信仰は仏教系の稲荷信仰である。豊川ダキニ眞天は、悪事災難を除き、福德智慧を賜り、苦を抜いて楽となし、悲しみを転じて喜びとなす。願い事が成就する靈験あらたかなお稲荷さんとして、広く人々に信仰されてきている。参拝の最に唱える真言は「オンシラバッタニリウンソワカ」というもので、これは「これを唱える時は、我が信心はどこまでも通じて、正しき戒力により悪事災難を除き、福德智慧を得、苦を抜いて楽となし、悲しみを転じて喜びとなすことが成就する」の意味である。

三河国出身の家系で、8代将軍吉宗に信頼され、旗本から三河国西大平藩主（初代）へと異例の栄進を遂げた大岡越前守忠相公も、国元の豊川ダキニ眞天を篤く信仰し、豊川ダキニ眞天をその屋敷内にまつっていた。これが東京の赤坂にある豊川稲荷東京別院の起源で、ここに大岡越前守忠相公を別院の開基としてまつてある。今川義元公、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、大岡忠相、渡辺華山らも深く信仰していたと言われている。

境内内地は、3万4500余坪有り、中に総門、山門、法堂、豊川稲荷御本殿、奥ノ院、宝雲殿、景雲殿、弘法堂、大黒天堂、鐘桜、万堂、豊樂殿、書院らが建ち並んでいる。東京のほか、大阪、横須賀、札幌、福岡、千頭に、夫々別院がおかれ、分霊は全国至る所にまつられている。

2、曹洞宗の歩み

曹洞宗の名称は、中国禅宗の大成者といわれる曹溪慧能禪師（638～713）の「曹」と、中国曹洞宗の祖といわれる洞山良かい禪師（807～869）の「洞」をとったものといわれている。日本の曹洞宗は、道元禪師（1200～1253）によって伝えられた。禪師は14歳の時比叡山で出家得度し、24歳の時、宗（中国）へ渡り、天童山景德寺の如浄禪師（1163～1228）のもとで厳しい修行を重ねた後、印可証明を受けて帰国した。

京都において、「普勸坐禅儀」や「正法眼蔵」などを著し、修証一等（修行とさとり（証）が一であること）の座禅を示された。越後においては、永平寺を開山され、正しい仏法の後継者を育成することに努力された。

今日、曹洞宗は、全国に寺の数約15000ヶ寺と、檀信徒約700万人を数える日本最大の仏教教団である。その発展の基を築いたのが、道元禪師から数えて4代目の法孫にあたるけい山禪師（1268～1325）である。禪師は、13歳の時永平寺で出家得度し、その後、全国へ行脚に出て修行を深めた。禪師は、坐禅中心の宗旨を守りつつも、祈祷や在家の追善供養などを積極的に取り入れ、民衆教化につとめた。特に民間信仰を受容した姿勢が人々の心を引き付け、かつ安心を与えた。曹洞宗には、道元禪師の開いた永平寺（福井県）とけい山禪師の開いた総持寺（神奈川県）の2つの大本山がある。

現在、全国の曹洞宗の寺院には、特色ある祈祷寺院が数多くある。妙巖寺にまつている豊川ダキニ眞天（通称豊川稲荷）は商売繁盛・心願成就の祈祷で全国的に知られている。そのほか、イタコ市・恐山円通寺（青森県むつ市）、とげぬき地藏・高岩寺（東京都豊島区）、道了尊・最乗寺（神奈川県南足柄市）、秋葉三尺坊・可睡斎（静岡県袋井市）などがある。

3、感想

現在私は豊橋市に住んでいて、豊川市は車で約30分の距離である。名鉄電車の豊川稲荷線があるだけあって、市内中心部の商店街は豊川稲荷参拝者で栄えているという印象を受けた。また、その広大な敷地と大きな建物にも驚きを覚えた。敷地内には寺賓館という展示館があり、絵画軸や宝刀剣、四天王像、漆器、欄間彫刻、仏画軸、書軸などが展示されていて一見の価値はある。日本の地方にあって、しっかりと歴史と文化に根差しているという印象を受けた。しかし、祈祷内容を見ても、家内安全、商売繁盛、交通安全、心願成就、事業繁栄、息災延命といったこの地上のことしか内容としては挙げられてなく、ここに永遠への思いと救いは全く感じられなかった。





